

別記 アンケート調査結果

1 高齢者の救急搬送について

(1) 高齢者の救急搬送の増加について

①知っている 70%(21名)

②知らない 30%(8名)

(2) 高齢者からの救急要請について

①知っている 80%(24名)

②知らない 20%(5名)

(3) 救急現場で高齢者が延命治療を望まない意思表示をかかりつけ医の署名入りの文書を提示した場合、どのような対応が良いかについて

①高齢者の意思に従う 38%(11名)

②家族の判断に従う 34%(10名)

③主治医の判断を聞く 28%(8名)

2 地域包括ケアシステムについて

(1) 地域包括ケアシステムを知っているかについて

①知っている 10%(3名)

②知らない 90%(26名)

(2) 生活の場として高齢者の多くが自宅を望んでいることについてどのように考えるかについて

①高齢者の意思のどおり 48%(14名)

②介護の問題で難しい 38%(11名)

③施設の入所がよい 14%(4名)

④関心がない 0%(0名)

(3) 支援活動の意思について

①積極的に支援する 7%(2名)

②できることで支援する 83%(24名)

③気持ちはあるが支援できない 10%(3名)

④支援するつもりはない 0%(0名)

3 在宅医療について

(1) 在宅医療を知っているかについて

①知っている 90%(26名)

②知らない 10%(3名)

③家族等が診療を受けている 0%(0名)

(2) 自宅希望高齢者の意思実現には、在宅医療の充実が必要と思うかについて

①思う 100%(29名)

②思わない 0%(0名)

(3) 在宅医療の充実には、地域及び地域事業所の見守り、生活支援が必要と思うか

①思う 100%(29名)

②思わない 0%(0名)

(3) 見守り等の支援活動に係わっていきたいと思うかについて

①思う 24%(7名)

②思うがどうしたらよいかわからない 73%(21名)

③思わない 3%(1名)

4 在宅療養支援隊について

(1) 在宅療養支援隊は必要かについて

①必要 100%(29名)

②必要でない 0%(0名)

(2) 支援隊としての活動を望むかについて

①望む 3%(1名)

②気持ちはあるが自信がない 94%(27名)

③望まない 3%(1名)

(3) 本講習は仕事に反映できるか(高齢者の見守り、高齢顧客との対応)について

①反映できる 90%(26名)

②できない 0%(0名)

③わからない 10%(3名)

(4) 在宅療養支援隊の対象となる事業所について

①宅配業者

②自宅を訪問する事業者

③新聞配達

④警備保障会社

⑤地域の商店カ高齢者と接する仕事であればすべて

⑥コンビニ事業者

⑦地域の病院職員

⑧保険営業者コヤクルト販売事業

⑨自動車販売事業者

⑩郵便事業者

⑪AED 販売事業者

5 在宅療養支援隊講習について

(1) 本講習の参加の感想について

①役に立った 100%(29名)

②役に立たなかった 0%(0名)

(2) 講習内容として必要な項目について(回答の多い項目掲載)

①重症度緊急度判断(トリアージ)62%(18名)

②応急手当の基本 41%(12名)

③傷病者への心理的配慮 31%(9名)

④医療行為の補助 20%(6名)

6 災害時医療支援行動について

在宅療養支援隊講習の内容に関連し、震災時の医療救護所等における一般人の医療支援行動について

(1) 一般人の医療支援行動について

①必要がある 48%(14名)

②必要だが自信がない 48%(14名)

③一般人は医療的行動をすべきでない 3%(3名)

(2) 災害時医療支援行動をする意思について

①ある 41%(12名)

②自信がない 59%(17名)

③ない 0%(0名)

(3) 自信を持つのに必要なことについて

①講習で知識を増やす

②応急手当の基本の習得ウ最低限の知識と勇気